

令和2年度

第4回 弘前市協働によるまちづくり推進審議会

日時：令和2年9月28日（月）午後6時～
場所：弘前市役所市民防災館3階 防災会議室

次 第

1 開 会

2 議 事

答申内の市の取り組みへの改善に向けた提案について（検討）

3 事務連絡

4 閉 会

答申内の「改善に向けた提案」(案)

1 当市の学生力(学生の特徴)への理解

学生力が発揮されるまちづくりを推進するうえでは、学生の特徴、力を理解することが重要であるため、審議会において話し合った学生力について下記に示す。学生と関わりを持つ場合には、このことを念頭に置き取り組むこと。

【学生力】

- ① 若さ、エネルギー、勢い、マンパワー(1万人)がある。
- ② チャレンジ精神が豊富である。
- ③ 柔軟な発想力がある。(しがらみがない)
- ④ 吸収力が高い。
- ⑤ 学業で得た専門知識や、様々な特技がある。
- ⑥ 周囲に活力を与える。
- ⑦ 出身地が多様である。(市外居住者も多い)
- ⑧ インターネット、SNS利用者が多い。
- ⑨ 流行に敏感である。(将来、流行るものを教えてくれる)
- ⑩ 次の子育て世代、活躍世代である。
- ⑪ 子どもと大人をつなげることができる。
- ⑫ 学生間のつながりが強い。
- ⑬ 新入学により、毎年新たな学生が生まれる。

2 学生に対する市の基本姿勢

(1) 学部、学科の特性を生かした学生力の活用

市内には様々な大学・学部があるため、それぞれの専門分野、ニーズ、学生の特徴などを正確に把握したうえで、協働の手法について検討すること。

(2) 学生と関わるうえでの心構え

各事業等で学生と関わる場合は、学生を「活用」という視点だけでなく、事業への参加を通じて、学生の学びの場を提供し、育てるという視点を持って取り組むこと。

3 学生への弘前市や「まち（弘前）づくり」に関する情報提供

(1) 大学の講義等に、職員等が出向いて行う出前講座等の推進

現在行われている、各大学での「出前講座」や、「弘前リードマン派遣」など学生が市政やまちづくりを学ぶことができる事業の充実を検討し、活用機会の創出を図ること。

(2) 実習生等の受け入れ

学生が、インターンシップや各種資格取得を目的として、市の施設等で実習を行う場合、弘前市ならではの働き方、施設の特徴、魅力などを知ってもらえるよう努めること。

(3) 地域を知る機会の創出

市内の公共施設無料パスポートを配布するなど、学生が弘前のことを知り、学ぶことができる機会の創出を図ること。

(4) 情報が届きやすい仕組みの工夫

学生に対して、市の取り組みやイベントなどの各種情報を提供するに当たっては、情報を集約して発信するなど、届きやすい仕組みについて検討すること。

4 学生の附属機関委員への参加

学生を附属機関の委員とすることは、学生目線での意見の吸い上げだけでなく、市政への理解促進、実践力の向上にも繋がるため、各附属機関の性質、特徴などを考慮したうえで学生の登用を検討すること。なお、学生委員の導入にあたっては、学生枠の設定のほか、公募委員の募集の際に「学生も応募可」と表記するなど学生が応募しやすい工夫をすること。

5 学生の「まち（弘前）づくり」事業への参加

（1）市主催の人材育成講座への学生参加促進

「ひろさき未来創生塾」や「防災マイスター養成講座」など、市が主催するまちづくりに関する人材を育成する講座への学生参加の推進に積極的に取り組むこと。

（2）「企画・提案・実践」への参加

学生に対しては単なる労働力の提供だけを求めるのではなく、事業への「企画、提案、実践」と最初から最後まで関わることができるような仕組みを検討すること。

（3）わかりやすい募集案内

市が実施するイベント毎に参加の難易度やレベル、細かいターゲット層があるため、「専門的な知識がなくても大丈夫。参加するだけで学びに繋がります。」や「地域活動に興味のある学生、大歓迎。」など、参加者募集時の表現を工夫すること。

（4）金銭面での配慮

学生の特徴のひとつとして、金銭面に余裕がないことがあげられるため、「学生＝ボランティア」ではなく、アルバイトとしての参加や、成果に対する報酬、交通費の支払いなども積極的に検討すること。

（5）相談窓口の周知

各大学の教員や学生が市と結びつきたい際の相談窓口について、問い合わせ先がわかるよう、教員や学生が目にする機会の多い資料等への情報掲載を検討すること。

6 学生による「まち（弘前）づくり」を育む支援制度

学生によるまちづくりの推進を支援する既存制度（学生地域活動支援事業、市民参加型まちづくり1%システム支援補助金など）の積極的な周知、内容の見直しを含め、学生が主体となって行われる「まち（弘前）づくり」を育み、発展させる支援制度の充実について検討すること。

7 学生と市民活動団体等との「協働によるまち（弘前）づくり」の促進

（1）学生の地域活動の市民活動団体等への情報提供

各大学の学生グループやサークル団体などの活動の中にはまちづくりに繋がるものも多いことから、町会や市民活動団体等に対して積極的に情報提供を行うこと。

（2）学生と市民活動団体等のマッチング

学生と市民活動団体等がマッチングしやすい仕組みについて検討し、地域と学生が繋がりやすい環境の整備に努めること。

（3）学生と市民活動団体等の連携・協働事例の紹介

地域や市民活動団体、企業などが学生と直接連携している事例などについても、広く市民に紹介するよう努めること。

第2回～3回審議会での答申案の基になった意見

2 学生に対する市の基本姿勢

【答申案の基になった委員の意見】

- 学生の主体的な取り組みを促していくにあたり、行政として大学ごとのニーズ、現状、課題を把握し、それに合わせて企画することが重要だと思う。
- 学生が大学では学べないことを地域で学ぶ機会を増やし、力にしていけるプロセスを地域全体で作ることが必要だと思う。
- まずは、市民が学生に地域について教えることが大事。



【答申案】

(1) 学部、学科の特性を生かした学生力の活用

市内には様々な大学・学部があるため、それぞれの専門分野、ニーズ、学生の特徴などを正確に把握したうえで、協働の手法について検討すること。

(2) 学生と関わるうえでの心構え

各事業等で学生と関わる場合は、学生を「活用」という視点だけでなく、事業への参加を通じて、学生の学びの場を提供し、育てるという視点を持って取り組むこと。

3 学生への弘前市や「まち（弘前）づくり」に関する情報提供

【答申案の基になった委員の意見】

- 学生が市の事業に参加しやすいように、各大学に積極的にアプローチしていくことが大切だと思う。
- せっかく弘前市の博物館や公民館などに来て実習するのだから、受け入れ側は弘前市のことや施設の特徴などを丁寧に説明し、弘前市を好きになってもらえるような意識を持って対応することが大切。
- 学生が地域を知るきっかけづくりとして、1年生限定で「地域施設パスポート」のようなものを発行し、地域の伝統文化施設や名所に無料で入れるような取り組みをしているところもある。
- 弘前市には様々な情報発信ツールがあり、どれを見ていいかわからない状況にある。もう少し情報発信のあり方を考えなければ、学生の参加者を増やすことはできないと思う。



【答申案】

- (1) 大学の講義等に、職員等が出向いて行う出前講座等の推進
現在行われている、各大学での「出前講座」や、「弘前リードマン派遣」など学生が市政やまちづくりを学ぶことができる事業の充実を検討し、活用機会の創出を図ること。
- (2) 実習生等の受け入れ
学生が、インターンシップや各種資格取得を目的として、市の施設等で実習を行う場合、弘前市ならではの働き方、施設の特徴、魅力などを知ってもらえるよう努めること。
- (3) 地域を知る機会の創出
市内の公共施設無料パスポートを配布するなど、学生が弘前のことを知り、学ぶことができる機会の創出を図ること。
- (4) 情報が届きやすい仕組みの工夫
学生に対して、市の取り組みやイベントなどの各種情報を提供するに当たっては、情報を集約して発信するなど、届きやすい仕組みについて検討すること。

4 学生の附属機関委員への参加

【答申案の基になった委員の意見】

- 審議会などに参加し、市政について考える実際の現場に入ることは学生にとって勉強になるうえに学生の意見を聞くことができる。また、いろいろな人の意見を聞き、考え、発言する機会にもなるので、学生の実践力の向上にも繋がる。
- すべての附属機関に学生を入れることは難しいため、各附属機関の特性に合わせて検討していく必要があると思う。
- 公募委員の募集の際に「学生も可能」のようなことを一言書けば、推薦だけじゃなくて自ら手を挙げる学生も出るかもしれない。



【答申案】

学生を附属機関の委員とすることは、学生目線での意見の吸い上げだけでなく、市政への理解促進、実践力の向上にも繋がるため、各附属機関の性質、特徴などを考慮したうえで学生の登用を検討すること。なお、学生委員の導入にあたっては、学生枠の設定のほか、公募委員の募集の際に「学生も応募可」と表記するなど学生が応募しやすい工夫をすること。

5 学生の「まち（弘前）づくり」事業への参加

【答申案の基になった委員の意見】

- 学生にはイベント当日だけ参加してもらおうのではなく、事業をどうやっていくか企画する段階から参加してもらったほうが、楽しいのではないか。
- イベント毎に参加の難易度やレベルがあり、参加者についても細かいターゲット層があると思うので、学生側からもわかるような募集や告知の工夫をして欲しい。
- アルバイトという形で市民の活動や市の事業に参加してもらい、賃金を払うことも多くの学生に参加してもらおうきっかけの一つになると思う。
- コンソーシアムのパンフレットなどで市の窓口が紹介されていると大学側が市と関わりやすくなると思う。
- 市と学生の関わりを強化するうえでは、最初の相談窓口の周知が必要。



【答申案】

（1）市主催の人材育成講座への学生参加促進

「ひろさき未来創生塾」や「防災マイスター養成講座」など、市が主催するまちづくりに関する人材を育成する講座への学生参加の推進に積極的に取り組むこと。

（2）「企画・提案・実践」への参加

学生に対しては単なる労働力の提供だけを求めるのではなく、事業への「企画、提案、実践」と最初から最後まで関わることができるような仕組みを検討すること。

（3）わかりやすい募集案内

市が実施するイベント毎に参加の難易度やレベル、細かいターゲット層があるため、「専門的な知識がなくても大丈夫。参加するだけで学びに繋がります。」や「地域活動に興味のある学生、大歓迎。」など、参加者募集時の表現を工夫すること。

（4）金銭面での配慮

学生の特徴のひとつとして、金銭面に余裕がないことがあげられるため、「学生＝ボランティア」ではなく、アルバイトとしての参加や、成果に対する報酬、交通費の支払いなども積極的に検討すること。

（5）相談窓口の周知

各大学の教員や学生が市と結びつきたい際の相談窓口について、問い合わせ先がわかるよう、教員や学生が目にする機会の多い資料等への情報掲載を検討すること。

6 学生による「まち（弘前）づくり」を育む支援制度

【答申案の基になった委員の意見】

- 補助金の交付申請書を作成するプロセス自体や、補助事業を通じて地域の人達と関わっていくことが学びに繋がっていく。
- 地域が遠いから行きにくいという問題があるのであれば、それに対しての支援も一つの手である。



【答申案】

学生によるまちづくりの推進を支援する既存制度（学生地域活動支援事業、市民参加型まちづくり1%システム支援補助金など）の積極的な周知、内容の見直しを含め、学生が主体となっていく「まち（弘前）づくり」を育み、発展させる支援制度の充実について検討すること。

7 学生と市民活動団体等との「協働によるまち（弘前）づくり」の促進

【答申案の基になった委員の意見】

- 学生自身が地域活動と思っていないなくても、教員から見ると立派な地域活動になることがあり、地域に喜びを与えているケースもある。
- 有料で地域活動をしており、ホームページなどから申し込むことができるサークルなどもあるが、その様な情報が広く市民に伝わっていないことが問題だと思う。
- 地域が学生を探すのは大変であり、どのようにアプローチしていいかわからない。
- 学生が直接地域の様々な活動に入っていることを見ておかなければいけない。



【答申案】

(1) 学生の地域活動の市民活動団体等への情報提供

各大学の学生グループやサークル団体などの活動の中にはまちづくりに繋がるものも多いことから、町会や市民活動団体等に対して積極的に情報提供を行うこと。

(2) 学生と市民活動団体等のマッチング

学生と市民活動団体等がマッチングし易い仕組みについて検討し、地域と学生が繋がりやすい環境の整備に努めること。

(3) 学生と市民活動団体等の連携・協働事例の紹介

地域や市民活動団体、企業などが学生と直接連携している事例などについても、広く市民に紹介するよう努めること。